

研究領域名	都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究
領域代表者	山田 重郎（筑波大学・人文社会系・教授）
研究期間	平成30年度～平成34年度
領域概要	<p>古代西アジアでは人類史上初めて都市型社会が生まれ、都市を中心に地域の在り方が決定づけられる社会構造が広域に形成された。西アジアの都市遺構は、豊富な考古学的資料と保存性の高い媒体（粘土板）に書かれた多くの文字資料によって、都市文明の発生とその古代における変容に関して、大量のデータを提供する。本領域研究は、人類の都市との関わりの原点であり、都市をめぐる濃密な歴史的経験である古代西アジア都市の諸相について、その発生のプロセス、景観と社会的機能の変遷と多様性、環境との相互影響関係を、考古学、文献学、自然科学の学際的連携によって解明する。さらに「都市とは何か」という命題を、西アジアの隣接地域ならびに後代の西アジア都市の諸相も射程に収めて考察することで、古代西アジア都市の個性を浮き彫りにし、その後代への影響を明らかにすると同時に、現代の都市主導型文明のサステナブルな将来に向けて有用な文明論を提示する。</p>
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、古代西アジアにおける都市の諸相、特にその発生と変容、都市と環境との相互影響関係について解明しようとするものである。新学術領域研究「現代文明の基層としての古代西アジア文明—文明の衝突論を克服するために」（平成24～28年度）の成果によって、既に豊富な蓄積のある西アジア文明の考古学的研究を中核としつつ、都市研究に特化した新たな切り口から、文献史学や自然科学的アプローチ、さらに都市計画研究との学際的連携を図ることで、サステナブルな未来をもたらすための都市文明論の提唱、そして現代西アジア地域における破壊された都市の復興への貢献までも視野に入れた新たな提案である。本研究領域は、古代西アジア都市の研究を確固たる土台に、現代的意義と発展性を備えた都市研究を目指す試みとして高く評価することができる。</p> <p>一方、古代西アジア都市の研究としては着実な成果が期待できるものの、本研究領域がそのような実証的研究を土台に、いかにして人類社会における都市文明の本質を解明し、都市の未来に向けて提言するところにまで到達するかについては、領域推進の計画・方法を見直し、公募研究による強化が必要である。</p>